



更新日：2026/3/20

国際空手道連盟総本部極真会館手塚グループ

# 公式試合規約

2026- 極真手塚杯全日本空手道選手権大会

※最新の更新日版が有効になります。

<http://karate-tezuka.net/>  
[honbu@karate-tezuka.net](mailto:honbu@karate-tezuka.net)



## 国際空手連盟総本部極真会館手塚グループ / 試合規約 - 組手・型共通

### 【審判構成】

最高審判長：大会全体の裁定責任者

審判長：コート単位の裁定責任者（大会毎に有無可変）

審判員：主審、副審からなる試合裁定責任者

審判長は特に世界大会や全国大会などで採用される場合がある。また決勝戦などで採用される場合もある。

最高審判長及び審判長は審判員の判定に対し異議を唱えた上で、審判員を召集し再判定を促すことができる。

### 【審査基準】

競技に関する最終決定はすべて最高審判長ないしは審判長の裁決による。

試合結果については、選手とその関係者は、審判長・審判員や主催者に対して、異議を一切申し立てることはできない。

### 【優先最新規約】

極真手塚グループ公式サイト掲載規約が最新版であり優先します。<https://karate-tezuka.net/>

## 国際空手連盟総本部極真会館手塚グループ / 試合規約 - 組手

### 【勝敗の決定方法】

組手の勝者は、一本勝ち・技あり2本による合わせ一本勝ち、判定勝ち、相手の失格ないし棄権による勝ち、により決定される。

勝敗の決定は原則とし、最高審判長・審判長の判断で変更することもある。ただし、怪我などの負傷、体調不良などの身体上の問題がある場合は、医師など専門家の判断を優先する場合もある。

### ■一本勝ち

①反則箇所を除いて、突き、蹴り、肘打ち等を瞬間的にきめ、相手選手を3秒以上ダウンさせるか、一時的に戦意を喪失させたとき。

### ■技あり

①反則箇所を除いて、突き・蹴りを的確に決め、相手選手が一時的にダウンし3秒以内に立ち上がったとき。

②相手選手が倒れないまでも、有効な攻撃でバランスを崩したり戦意を喪失したとき。

③足掛け技を含めて、ダウンさせた相手をタイミングよく下段突きで決めたときはタイミングによって技有りとする事もありうる。

④ジュニアなど、ヘッドガード（防具）着用時は、タイミングよく的確に上段廻し蹴りがヒットした場合は、技ありとする。

⑤高校生以下は、前蹴りが的確に入り尻餅をついた場合も、技ありとする。

⑥意志（負傷など）をもって試合を止めた場合（場外を含む）、相手の技ありとする。

⑦技ありは2本で一本勝ちとする。

### ■判定と延長戦

①試合時間内に一本勝ちで勝敗が決まらない場合は、判定で決定する。

②判定は、主審1名、副審4名のうち、3名以上の判断で決定するが、主審1名、副審4名のうち3名以上の審判の判断が無い場合は引き分けとし、延長戦、再延長戦を行う。※延長戦・再延長戦は試合毎の規約による。

③延長戦を1回2回繰り返しても決まらない場合は、体重の軽い方を有効とする。※大会規約によって異なる場合があります。

④主審同時上げ、非同時上げは大会運営による。

⑤減点、注意は延長戦に持ち込まない。

### 【反則】

①手、肘による顔面および首への攻撃。

②金的蹴り、頭突き、倒れた相手への攻撃。

③相手の道着、手足を掴んだり、首から上を手掛けしての攻撃。

④相手の背後からの攻撃。

⑤相手を掌底で押した場合。

⑥故意に転倒し相手に攻撃させない場合。

⑦何度も場外に出た場合や意図的に場外へ出た場合。

⑧膝関節への正面からの攻撃（主に前蹴りや横蹴り）。

⑨掛け逃げやクリンチ回避（つかまずとも）

⑩頭（特にヘッドギア）を付けての攻撃

⑪急所付近への雑な攻撃

⑫体重は試合前後および大会中に抜き打ち検査方式

・超過 2Kg 未満注意 1

・2Kg 以上 5kg 以下減点 1

・5kg 以上失格

⑬以上の他、主審が反則とみなした場合。



金的を含む急所攻撃は故意でなくとも注意が与えられる。逆に急所に当たっていないにも関わらず審判へのアピールをした場合も注意とする。

反則は悪質なものを失格とし、それ以外は注意が与えられ、注意2回で減点1。減点2で失格となる。

悪質な反則は1回で減点とする場合がある。（故意の顔面殴打、掴み、急所攻撃等）

### 【礼節】

武道の試合は勝敗以上に礼節が大切であることに留意する。試合は字の如く試し合いであり勝敗を決する以上に学びの場である。学びの場とすることが極真手塚グループの拠って立つべきところである。

試合中も武道家らしく心静かに興奮せず審判など周りが見えている状態を維持する。

- ① 試合場に入退場時、試合開始終了時は丁寧に礼をする。
- ② 勝敗が明らかな場合に追い打ちをかけない。
- ③ 相手を見下した態度をとらない。
- ④ 審判に対する必要以上のアピールをしない。
- ⑤ 勝った場合や技ありを決めた場合、勝利をアピール（ガッツポーズなど）する態度をとらない。
- ⑥ 敗者は下を向いたり不満を表したり惨めな態度をとらない。
- ⑦ 勝敗ではなく、試合そのものを互いに称え合う姿勢で終了する。
- ⑧ 選手のコーチや応援団など野次、罵声、相手を揶揄するなど礼節を欠く声援を慎む。
- ⑨ 選手以外は試合後も決して試合場に入らない。（抱き合う、胴上げなど）
- ⑩ 態度や形以上に心の姿勢が大切であることを知る。
- ⑪ その他、礼節を欠くとみなされた場合。

※以上のことが守れない場合の対応

・選手に対しては主審の判断により減点・反則・失格をとる事ができる。

・セコンドに対しては試合場からの退席を命じる事ができる。

・応援者やその他に対しては、主催者及び審判長、審判員は必要と思われる対応（注意・退場など）と取ることができる

### 【失格】

- ① 減点が2になった場合。
- ② 試合中、審判員の指示に従わない場合。
- ③ 出場時刻に遅れたり、出場しない場合。
- ④ 粗暴な振舞い、悪質な試合態度、悪質な反則など主審が失格とみなした場合。

### 【棄権・欠場】

正当な理由なくして試合を放棄してはならない。但し下記の場合は例外とする。

- ① 大会主治医の診断を受けたその結果、試合 続行不可能と見なされた時。
- ② 試合直前または試合中、本人に関係する不慮の事故が発生し、審判長が退場を許可した時。
- ③ その他、審判長が退場を許可した時。

### 【その他】

- ① 試合中に起きた負傷は応急処置以外主催者は責任を負わない。スポーツ安全保険に加入などで各自が対応する。
- ② 選手は健康保険証 or マイナンバーを持参のこと。
- ③ 選手は清潔な空手着を着用し、背中にゼッケンを付けること。
- ④ 防具着用以外のサポーター、テーピングは原則認めない。許可を求める時は医師の診断書を添えて主催者の承認を得ること。
- ⑤ 会場では係員の指示に従い速やかに行動してください。
- ⑥ 対戦相手、審判に野次や罵声をかけた者は、即刻退場させ以降出場停止。



大会は下記の構図によって進行される。

■チャンピオンシップクラス

- ・一般男子                      本戦：3分    延長戦：2分    再延長戦（決勝のみ）：2分
- ・高校生、一般女子、壮年    本戦：2分    延長戦：2分    再延長戦（決勝のみ）：2分
- ・中学生                        本戦：2分    延長戦：2分    再延長戦（決勝のみ）：2分
- ・幼年・小学生                本戦：1分半 延長戦：1分半 再延長戦（決勝のみ）：1分半

■チャレンジクラス

- ・一般男子                      本戦：2分    延長戦：1分半 再延長戦（決勝のみ）：1分半
- ・高校生、一般女子、壮年    本戦：2分    延長戦：1分半 再延長戦（決勝のみ）：1分半
- ・中学生                        本戦：2分    延長戦：1分半 再延長戦（決勝のみ）：1分半
- ・幼年・小学生                本戦：1分半 延長戦：1分    再延長戦（決勝のみ）：1分

チャンピオンシップ	ハットガード	拳サポ	足サポ	膝サポ	フールカップ (アブドメントガード)	女子胸ガード	顔面膝蹴り
小学男子の部	○	○	○	任意	○	—	○
小学女子の部	○	○	○	任意	任意	任意	○
中学男子の部	○	○	○	任意	○	—	○
中学女子の部	○	○	○	任意	任意	○	○
高校男子の部	○	○	○	任意	○	—	○
高校女子の部	○	○	○	任意	任意	○	○
一般男子の部	×	×	×	任意	○	—	○
一般女子の部	×	×	○	任意	任意	○	○
シニア男子の部	×	○	○	任意	○	—	○
シニア女子の部	×	○	○	任意	任意	○	○

チャレンジ	ハットガード	拳サポ	足サポ	膝サポ	フールカップ (アブドメントガード)	女子胸ガード	顔面膝蹴り
小学男子の部	○	○	○	任意	○	—	×
小学女子の部	○	○	○	任意	任意	任意	×
中学男子の部	○	○	○	任意	○	—	×
中学女子の部	○	○	○	任意	任意	○	×
高校男子の部	○	○	○	任意	○	—	×
高校女子の部	○	○	○	任意	任意	○	×
一般男子の部	○	○	○	任意	○	—	×
一般女子の部	○	○	○	任意	任意	○	×
シニア男子の部	○	○	○	任意	○	—	×
シニア女子の部	○	○	○	任意	任意	○	×



## 国際空手連盟総本部極真会館手塚グループ / 試合規約 - 型

### 【審査基準】

審判員および審議員は同等の権限を持って競技の審査に当たるが、競技に関する最終決定はすべて審判長の裁決による。

試合結果については、選手とその関係者は、審判員や主催者に対して、異議を一切申し立てることはできない。

### 【勝敗の決定方法】

型の勝者は、判定勝ち、相手の失格ないし棄権による勝ち、により決定される。

#### ■勝敗形式（2名の選手の優劣で競う場合）

判定は3名ないしは5名の審判員がどちらか一方の旗を掲げて行う。引分は無い。主審のみの判断は認めない。但し、審判員はそれぞれに意義を申し立て協議する権利を有する。

#### ■上位得点形式（3名以上の選手の優劣で競う場合）

審判員5名以上の得点形式で行う。

最下位と最上位の得点をのぞいた合計点（ないしは平均点）で競う。

大会ごとに規定された人数の上位者が勝ち残る。

### ■判定内容

型の種類や内容は各道場・流派・会派を尊重し判定対象としない。

① 礼節・気迫・気合

② 身体全体を使った雄大さ・優美性・表現力

③ 柔軟性・技の連動性

④ 下半身の安定・運足

⑤ 技の緩急・切れ、動作の機敏性

※勝敗形式の場合は各項目に優劣をつけ3項目以上とった方に審判員は旗を掲げる。

※上位得点形式の場合は各10点、計50点を審判員一人の得点とする。

### ■減点

① 静止状態の極め動作で2秒以上、(それ以外の所で1秒以上)経過した場合、技の順番を見失ったとみなし、全体評価「③技の連動性」において、1回毎に2点減点する。但し、「平安三」の結び立ちから前蹴りを出し騎馬立ちに移動する箇所など型の必然であればこの限りではない。

② 移動中のつまづき、バランスを崩した場合、「④下半身の安定と運足」からその度合いに応じ2-4点減点する。

③ 礼を失する場合は「①礼節・気迫・気合」からその度合いに応じ2-4点減点する。

### 【反則】

① 相手の演舞を邪魔する行為

### 【礼節】

武道の試合は勝敗以上に礼節が大切であることに留意する。試合は字の如く試し合であり勝敗を決する以上に学びの場である。

学びの場とすることが極真手塚グループの掲げて立つべきところである。

試合中も武道家らしく心静かに興奮せず審判など周りが見えている状態を維持する。

① 試合場に入退場時、試合開始終了時には丁寧に礼をする。

③ 相手を見下した態度をとらない。

④ 必要以上の審判に対するアピールをしない。

⑤ 勝利をアピール（ガッツポーズなど）する態度をとらない。

⑥ 敗者は下を向いたり不満を表したり惨めな態度をとらない。

⑦ 勝敗ではなく、試合そのものを互いに称え合う姿勢で終了する。

⑧ 選手のコーチや応援団など野次、罵声、相手を揶揄するなど礼節を欠く声援を慎む。

⑨ 選手以外は試合後も決して試合場に入らない。（抱き合う、胴上げなど）

⑩ 態度や形以上に心のありようが大切であることを知る。

審判の判断により以上のことが著しく欠く場合は反則/失格をとる場合もある。



**【失格】**

- ① 試合中、審判員の指示に従わない場合。
- ② 出場時刻に遅れたり、出場しない場合。
- ③ 礼節を欠いた態度を取った場合失格となります。

**【棄権・欠場】**

正当な理由なくして試合を放棄してはならない。但し下記の場合は例外とする。

- ・ 大会主治医の診断を受けたその結果、試合 続行不可能と見なされた時。
- ・ 試合直前または試合中、本人に関係する不慮の事故が発生し、審判長が退場を許可した時。
- ・ その他、審判長が退場を許可した時。

**【その他】**

- ① 試合中に起きた負傷は応急処置以外主催者は責任を負わない。各自スポーツ安全保険に加入する。
- ② 選手は健康保険証を持参のこと。
- ③ 選手は清潔な空手着を着用し、背中にゼッケンを付けること。
- ④ 防具着用以外のサポーター、テーピングは原則認めない。許可を求める時は医師の診断書を添えて主催者の承認を得ること。
- ⑤ 会場では係員の指示に従い速やかに行動してください。
- ⑥ 対戦相手、審判に野次や罵声をかけた者は、即刻退場させ以降出場停止。

